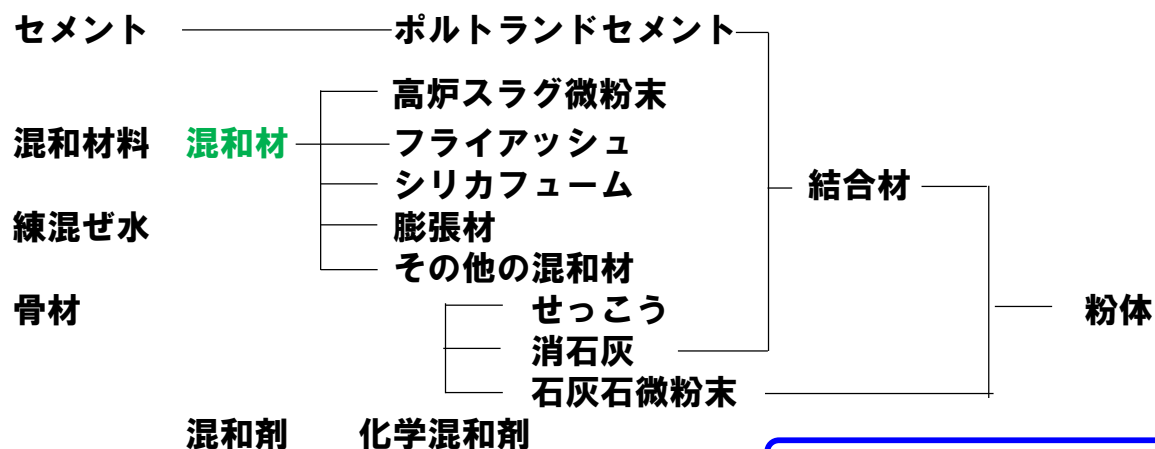


# 混和材を大量に使用したコンクリート構造物の設計施工指針(案)

◆ 産業副産物・廃棄物の混和材としての使用量をさらに増やしてCO<sub>2</sub>排出量を削減する方策として、JISで規定された置換率以上に混和材を用いることが提案及び検討されています。



混和剤を大量に使用したコンクリートとは、セメントと混和剤の含量に対する混和材の分量が質量比で70%以上であり、かつ、混和材の50%以上が高炉スラグ微粉末であるものをいう。

## 混和剤を大量に使用したコンクリートに用いる材料の分類。

### 6章 製造および施工

#### 6.1 一般

混和材を大量に使用したコンクリートの製造および施工は、所要の品質を有するフレッシュコンクリートおよび硬化コンクリートが得られるように行わなければならない

#### 6.8 養生

- (1) 混和材を大量に使用したコンクリートの養生は、打込み後の一定期間、硬化に必要な湿潤状態および温度に保ち、硬化コンクリートが所要の品質を有するように行わなければならない。
- (2) 硬化コンクリートが所要の品質を有するまでに必要となる湿潤養生期間は、試験等に基づいて設定する。
- (3) 湿潤養生時のコンクリートの温度は、硬化コンクリートの品質が損なわれないよう、適切な温度に保たなければならない。

型枠を取り外した鉛直面でもアーチ面でも湿潤状態(給水養生)が可能なアクアカーテンが活躍します。

SDGs、カーボンニュートラル、脱炭素コンクリートなど地球環境を守りましょう。